

国防計畫が責任を以て遺憾なきを期して確立され實施されてゐる如く文部當局も人的資源培養強化に周到の企畫をなし斷々乎として之れを實現する氣魄と責任を持つべきである。入試制度の如き末稍問題に苦慮低徊する如きは文教府の名譽ではない。

△其他「新考査法の次の一步」(朝日)「教育の方針、入試の成績、此次の市長」(都)

本日の新聞概観

第六十二號

内閣情報部報道班三・二二(木)

△概観  
本日朝刊の注目すべき記事としては、竹内總裁の物動計畫内容の説明、衆院豫算總會の豫算案可決經過、精動改革問題などの共通題目があるが、その他では「報知」の産組保険買収に對し農相中止勸告が特種になつて居るし、「國民」は齋藤所罰問題で、擁護派拾頭をセンセイショナルに扱つて居る、「都」は「議會に闡明された軍部の意向」をまごめて居るが、之は先に「朝日」が掲載したのを更に詳しくしたものである。

△國內關係

一、議會關係

衆院豫算總會で豫算案が可決され、各派の代表演説が出てゐるが、この演説は新聞には概して評判はよくない。「朝日」は「討論は何れも低調」とし、「日日」は「政黨政治復活を云々する人も多い、だがひと度この雰囲気を目撃するとき政黨の自信がみられるであらうか」、「讀賣」は「今日の議會にすべての國民的期待を抱くべしそれは餘りに稀薄なものでしかあり得ぬ」、「報知」は「政治の貧困は議會にある」なごとして居る。

イ、本年度物資供給量、前年より増加見込(竹内總裁物動計畫説明)

ロ、精動根本的に改革(首相言明)

之に關係して各紙に精動機構改革案が出て居るが、「讀賣」は中央聯盟試案として次の如く記載して居る。「文部偏重の精動委員會及び中央聯盟を解消、官民一致の官制による精動中央委員會を設け總理大臣を總裁とす、會長、理事長、理事は民間有識者を起用、地方廳に對し指揮命令權を持つ、内閣情報部は同運動より離脱せしめ、その實施系統を統一整備する」

「日日」は改組と同時に有馬會長、筑紫理事長等首腦部の更迭も行はれるとして居る、その他「中外」に大坪理事の談あり、

ハ、選挙法改正案の提出、時同各派を誘ふ

ニ、外地の主要食糧増産計畫發表

ホ、齋藤擁護に隠れ、現状維持派の攻勢態度（國民）

一兩日來除名論は弱くなり、登院停止の議論が抬頭、院内の現状維持勢力は齋藤氏擁護の名にかゝれ、全面攻勢の態度を示してゐる

ヘ、結局實行豫算編成か（讀賣）

三、産組の保險買収、農相中止を勸告（報知）

當局は産組保險經營の是非につき確信を得るまで、買収を中止せしめる方針

三、穀米科學研究所設立

四、炭相成過剩資金吸収策、中間公債、別種郵貯有力（日日）

五、石炭共販會社に互助會が反對（報知）

六、物價機構改組につききの藤原池田會談（都）

### △對外國關係

#### 一、米國の對日動向

(イ)キヤツスル氏ジュニア・リーグ集會で演説……對日禁輸の危険を説く。

二、淺間丸事件其後——獨人引渡問題協議（英大使、谷次官訪問）

クレイギー英大使は廿一日午後四時谷次官を訪問淺間丸事件獨人九名の引渡しにつき協議

外務省情報部長談の發表あり。

三、メキシコ通商使節團訪日計畫（メキシコ同盟）

廿一日メキシコ政府は官吏及實業家十五名の遣日使節團が日墨通商協定締結のため日本へ

向ふ旨發表。

四、一九三九年度、米の對日禁輸狀況（米商工省發表）（ニューヨーク同盟）

一九三九年度對日輸出額は同年度に於て對日輸出に制限手段が課せられた結果、原棉、石

油、自動車用品、飛行機材料部分品等の輸出は減少はしたが總額二億三千四百四十萬五千弗

に達し三八年度の二億三千九百六十六萬二千弗に比し大した減少を示してゐない。

五、アルゼンチン經濟使節團の審議會記事（各紙）

六、貿易協會海外に二十の出張所設置（外貨獲得に資するため）（各紙）

### △東亞關係

一、國共軋轢問題

「中外」「報知」「國民」が本件を一括整理して報道し「朝日」もよく取扱つてゐるが「日日」は電報一本を掲げたのみである。

(イ) 山西省西北區に近く一大決戦(太原同盟、朝日)、衝突は時期の問題、兩軍續々集結(北京同盟)

(ロ) 河北でも國共激闘(石家莊同盟)

(ハ) 國共國防政府の組織、中央再び要求(南京同盟、朝日)

二、戦況

(イ) 浙東方面：：蕭山南方の戦果(敵屍二千)(上海同盟)、第十集團軍長劉建緒爆死説、

百九十師師長楊余完銃殺(浙江○○同盟)、五十六師々長劉尙志自殺(漢口國民、朝日)

(ロ) 山東半島清掃戦：：榮成を占據(青島同盟)

三、英大使館重慶に移轉せず(ロンドン同盟)

英保守黨議員ド・ラ・ピア氏の質問に對し、バトラー外務次官より文書にて回答

四、ポリヴィア武官一行大陸へ向ふ(長崎國民)

△歐米關係

一、蘇芬戦争

(イ) マンネルハイム線突破を機に獨調停に出馬か(ニューヨーク中外)

(ロ) 芬、囚人も動員(ロンドン中外)

(ハ) 蘇軍海より進攻(ロンドン中外)

三、瑞典ミソ芬戦争(對芬援助問題)

(イ) 瑞興行動派、對芬援助決議を首相に手交(ストックホルム朝日、讀賣)

(ロ) 蘇聯編隊機瑞典領を爆撃(ストックホルム朝日、讀賣)

三、バルカン近東方面

イ、ルーマニア三月一日に總動員(ブカレスト同盟)

ロ、伊成行を重視(ローマ同盟)

ハ、在トルコ、ソ聯技師を召還(イスタンブール同盟)

ニ、ルーマニア對英聲明(石油問題に關し)(ロンドン朝日)

四、歐洲戦争

イ、獨ソ兩國は不可分一佛に對ソ攻撃論抬頭(バリ朝日)

ロ、獨、伊油槽四隻船雇入れ(イスタンブール同盟)

ハ、「戦亂の歐洲春季攻勢ありや(二)」(讀賣)：：バリ及シリアの特派員よりの電報を掲載す。

五、アルトマルク號事件

イ、ノールウエーの立場は合法的と諾外相聲明發表(英首相の諾威非難に對し)(オスロ同盟)

ロ、獨、諾威外相聲明を歓迎(ベルリン朝日)

六、伊、物價對策案(ローマ同盟)

イル大統領三選に反対、民主黨委員長フアレーン氏指名日取を獨斷決定（ニューヨーク中外）

二十二日付夕刊

△國內關係

- 一、衆議院、明年度豫算案を可決（附帶決議を付す）
- 二、議會質疑應答中主なるもの
  - イ、選舉法改正案の提案あれば検討（内相言明）
  - ロ、スフ國策の方針不變（商相言明）
  - ハ、適正價格決定方針、民間人の經驗利用（商相言明）
  - ニ、日發買收の三炭礦評價は妥當（遞相説明）
  - ホ、外炭輸入手控へ（商相言明）
  - ヘ、對外電報の取締りの連絡緊密化（内相説明）
  - ト、手持米三百卅萬石、買上總計四百萬石（米穀局長説明）
- 三、時局協議會聲明を齋藤隆夫氏反駁す

△官界財界にも觸手、番町會再建か（やまこ）

番町會は帝人事件で潰滅したが最近第二の番町會結成が傳へられ注目されてゐる。中心は岸本礦業理事富永氏で背景に岸本氏を、頭株は郷男に代り日鐵會長平生氏といはれ日鐵理事澁澤、關東軍顧問河合、京成電社長後藤、山叶商店社長水野、讀賣社長正力の緒氏が中堅で、その他滿業の鮎川氏、元商相吉野氏あり岸商工次官も滿洲時代グループにあつたといはれる。

△對外關係

- 一、日米懸案の解決内容、情報部長談發表
  - （一）東京で公式外交交渉となつた被害案件の内解決せるもの二件、占據使用等によるもの十件、（二）現地で解決せるもの九件に付各件名を公表す
- 二、英、日英國交調整に關心（ロンドン同盟）
- 三、米、日支紛争に中立法を適用せず、國務省法律顧問言明（ワシントン同盟）
- 四、禁輸は對日侮辱のみ、キヤツスル元國務次官演説（ボルチモア日日）

△歐米關係

- 一、獨船アルトマルク號事件
  - イ、獨の領海侵犯默認を英受諾し得ず、英首相言明、諾外相聲明を反駁（ロンドン同盟、特電）
  - ロ、獨政界憤激（ベルリン同盟）
- 二、英佛使節を交へ、土、緊急軍事會議（アンカラ同盟、特電）
- 三、ソ軍の土國境突破否定をタス通信發表（モスクワ日日）
- 四、非貨證券の買上で英米經濟合作、紐育市場の混亂を防止（ニューヨーク中外）
- 五、イラク政府總辭職す（ベルリン報知）

六陸ソ獨大使歸任（モスクワ同盟）

朝日論説題目

- 「朝日」 藤原商相の「適正價格」、新考査法の次の一步
- 「日日」 物の缺乏と國民性
- 「讀賣」 新入試制度の結論
- 「中外」 對歐洲戰施設の急務
- 「報知」 輸入先の分散
- 「國民」 國土計畫の急務
- 「都」 總豫算成立、續ての問題、教育の方針、入試の成績、此の次の市長

日情情報部 三三三 情報第一號

一 外國無線局發信電報放送（十八日）——（朝鮮總督府遞信局總取）  
〔重慶ロイテル新聞電報放送〕

一 支那軍指揮官に宛てた日本側メツセーヂの發表に關して調査せる結果、南支日本軍指揮官は二月十六日ラヂオ放送によつて廣西省南部戰線の支那軍指揮官に對してメツセーヂを通達し、支那軍將士の勇敢さを賞讃し、同時に支那側の作戰を批評してゐることが判明した。支那軍當局は今朝長文の聲明を發表して日本側のメツセーヂに對する驚きと當惑を表明し、且つ日本側は「單に支那征服を誇る許りでなく、支那軍を殲滅するために更に深く自由支那に侵入して見よ」と挑戦して、「日本側の占領してゐる要衝を奪還して見よ」といふ日本側の挑戦に應酬した。支那側聲明は「支那側の作戰は賢明ではないかも知れないが、それは確かに最近の湖北省北部、山西省南部、湖南省北部、廣東省北部及び廣西省南部に於ける戰鬪で成功してゐる、廣西省南部の日本軍は生憎く北進を敢行せず、その退却が非常に速かつた爲、支那側は僅かに日本軍の一部を包圍することに成功した」と述べ、日本側が南寧東北方の要衝崑崙關の防禦戰で一箇旅團及旅團長（少將）を失つたことに對して説明を求め、また支那側の作戰は一地點の占領のために戦ふのではなく、在支日本軍の